<u>全文検索システム『ひまわり』/設定ファイルリフ</u> アレンスマニュアル

Top / 全文検索システム『ひまわり』 / 設定ファイルリファレンスマニュアル

言語を選択│▼

全文検索システム『ひまわり』

はじめに ±

この文書は,「ひまわり」(ver.1.3, 1.5)の設定ファイルのリファレンスである。

- はじめに
- 設定一覧
 - コーパス,索引ファイル関連
 - corpora 要素
 - index cix 要素
 - <u>index eix 要素</u>
 - index aix 要素
 - 。 検索設定関連
 - field setting 要素
 - length context kwic 要素
 - length context search 要素
 - preceding context constraint 要素
 - following context constraint 要素
 - 。 GUI 関連
 - fontsize 要素
 - isIndexingEnable 要素
 - <u>isGenerateCorpusFileEnable 要素(ver.1.5で廃止)</u>
 - 。 閲覧関連
 - browsers 要素
 - xsl files 要素
 - 外部データベース関連
 - external tools 要素 (since ver.1.6)
 - access command1, access command2 要素 (deprecated)
 - ext db1, ext db2 要素
 - jitaidic 要素
 - 一覧表示機能関連
 - corpus fields
 - unit fields
 - user defined lists (since ver.1.6, 未確定)
 - stat fields 1, stat fields 2, stat fields 3
 - インポート関連 (since 1.5β)
 - <u>import / target file type 要素</u>
 - <u>import / char normalization 要素</u>
 - <u>import / char convertion table 要素</u>
 - <u>import / text_transformation_definition 要素</u>
 - import / xhtml style sheet 要素
 - import / xml style sheet 要素
 - import / as subcorpora 要素 (since 1.5β04)
 - import / not now indexing 要素 (since 1.5β04)
 - import / source files 要素 (since 1.5β04)

1

1.

1

- アノテーション関連
 - annotator 要素 (since 1.5β)
- 「ひまわり」資料参照関連
 - manual 要素
 - hp 要素
- パッケージ設定ファイル
 - インストール設定ファイルの仕様
 - インストール設定ファイルの例
 - 『分類語彙表』パッケージ
 - 『青空文庫』パッケージ

設定一覧 ±

コーパス,索引ファイル関連 🕇

<u>corpora 要素</u> [±]

コーパス集合を定義する要素

- 属性
 - 。 name: コーパス集合名
 - 。 dbpath: データベースへのパス(存在しない場合は, 一つ目のli/@pathのディレクトリを使用) (since ver.1.5 β)
- li (空要素)
 - 。 @name: コーパス名
 - 。 @path: コーパスファイル名へのパス+コーパスファイル名の本体(body)
 - 。 @isSelected (since ver.1.3): 検索対象とするか否か
 - false: しない ■ true: する(default)
- 例

```
<corpora name="「太陽」コーパス">
   name="「太陽」" path="Corpora/Zassi/Taiyo/corpus" />

  </corpora>
```

index_cix 要素 [±]

要素内容への索引

- li (空要素)
 - 。 @name: 索引対象の要素名
 - 。 @label: 検索対象選択メニューに表示される文字列
 - @middle_name: 索引ファイルの第2拡張子(ファイル名の末尾から2番目の拡張子)
 - 。 @field name: 結果レコードに照合した文字列を格納するフィールド名
 - 。 @type: 索引タイプ
 - normal (default) … 指定された要素の索引を作成する(検索文字列の先頭文字列が指定した要素内にあれば、マッチングする)
 - record_based ... 指定された要素の索引を作成する(検索文字列がすべて指定した要素内になければマッチングしない)
 - null ... 検索時に索引を使用しない(正規表現が利用可能)(since ver.1.3)
 - restricted (obsoleted since ver.1.3)
 - 。 @stop_element: ストップ要素名
 - 。 @isEditable: 編集の可否 (since ver.1.3)

http://www2.ninjal.ac.jp/lrc/index.php?%C1%B4%CA%B8%B8%A1%BA%F7%A5%B7%A5%B9%A5%C6%A5%E0%A1%D8%A4%D2%A4%DE... 2/13

- true
- false (default)
- 例

```
<index_cix>
 <!i label="本文" name="雑誌" middle_name="magazine"
type="normal" field_name="キー" />
  〈li label="本文(s 要素考慮)" name="雑誌" middle_name="magazine"
      type="normal" stop_element="s" field_name="+-" />
</index_cix>
```

index_eix 要素 [±]

要素への索引

- li (空要素)
 - 。 @name: 索引対象の要素名
 - @middle_name: 索引ファイルの第2拡張子(ファイル名の末尾から2番目の拡張子)
 - 。 @is_empty: 空要素か否か
 - true (= empty forward)
 - false (default)
 - empty forward (後方検索) ... マッチした文字列の後方に存在する指定要素に対する索引 (since ver.1.3)
 - empty backward(前方検索)... マッチした文字列の前方に存在する指定要素に対する索引 (since ver.1.3)
 - 。 @top: 資料の最大要素
 - 。 @isBrowsed: 閲覧対象の要素か否か
- 例

```
<index eix>

<pre
   <!i name="l" middle_name="ref" is_empty="true" />
</index_eix>
```

index_aix 要素 [±]

要素属性への索引

- li (空要素)
 - 。 @name: 索引対象の要素名
 - 。 @argument: 索引対象の属性名
 - 。 @label: 検索対象選択メニューに表示される文字列
 - 。 @middle_name: 索引ファイルの第2拡張子(ファイル名の末尾から2番目の拡張子)
 - @field_name: 結果レコードに照合した文字列を格納するフィールド名
 - @type: 索引タイプ
 - normal (default) ... 指定したキーで属性を検索
 - record based ... 指定したキーで属性を検索(前後文脈を検索条件で指定する代わりに、キー前後 の文字列(つまり属性)を正規表現で指定。例えば、「あ」で始まる属性を検索すると行ったこと が可能)
 - db ... データベースに格納されたアノテーション情報に基づき検索する
 - 。 @isCompleteMatch: 完全一致検索をするか否か(このオプションを変更した場合は、再度索引づけする 必要あり)
 - true
 - false (default)
- 例

1.

1

```
<index_aix>
  <!i label="ルビ(rt)完全一致" name="r" middle_name="r" argument="rt"
    isCompleteMatch="true" field_name="+—" />
  <!! label="ルビ(rt)部分一致" name="r" middle_name="r2" argument="rt"
    type="record_based" isCompleteMatch="false" field_name="キー" />
  <!! label="外字(name)" name="外字" middle_name="gaiji" argument="name"
    isCompleteMatch="true" field_name="キー" />
  </index_aix>
```

検索設定関連 ±

field_setting 要素 [±]

結果レコードのフィールド定義

- li (空要素)
 - @name: フィールド名 @type: フィールドタイプ
 - argument: 属性検索sibling: 兄弟要素検索relative: 隣接要素検索
 - index: レコード索引(行番号)
 - db: データベース検索 (since ver.1.5)
 - 。 @width: フィールド幅 (default: 40)
 - 。 @align: 文字揃え
 - LEFT (default)
 - CENTER
 - RIGHT
 - 。 @edit_type: 編集タイプ (since ver.1.5)
 - TEXT ... 自由記述(default)
 - SELECT ... 選択記述
 - 。 @edit_option: 編集オプション (since ver.1.5)
 - 。 @element: 表示対象の要素
 - 特殊要素 _EDIT ... 編集
 - 。 @attribute: 表示対象の要素属性
 - 。 @isEditable: 編集の可否 (since ver.1.5)
 - true ... 編集可能
 - false ... 編集不可(default)
 - 。 @sort direction: ソート方向
 - L ... 左から右(default)
 - R ... 右から左
 - gsort_order: ソート順位 (1~)
 - 。 @sort_type: ソートの種類
 - string (default) ... 文字列としてソート
 - numeric ... 数字としてソート
- 例

```
width="80" align="LEFT" sort_direction="L" sort_order="2"/>

cli name="分類番号" type="argument" element="c" attribute="分類番号"
       width="80" align="LEFT" sort_direction="L" />
  width="60" align="LEFT" sort_argument" element="s" attribute="行番号" width="80"
align="LEFT" sort_direction="L" />
name="行内番号" type="argument" element="l" attribute="行内番号"
       width="80" align="LEFT" sort_direction="L" />
</field_setting>
```

length_context_kwic 要素 ±

KWIC の文脈長を定義

- @value: 文脈長(文字)

```
<length_context_kwic value="10" />
```

length_context_search 要素 ±

正規表現検索時の照合文字列長の定義

- @value: 文脈長(文字)
- 例

```
<length_context_search value="10" />
```

preceding_context_constraint 要素 ±

前文脈の制約値を定義。この値は、前文脈欄の history 機能の履歴として登録される。

- @value: 制約値
- 例

```
context_constraint
value="[^0-9ァ-ヴーa-z A-Z. /・:][^0-9ァ-ヴーa-z A-Z¥s]?$"/>
```

following_context_constraint 要素 ±

後文脈の制約値を定義。この値は、後文脈欄の history 機能の履歴として登録される。

- @value: 制約値

```
<following_context_constraint
value="^[^0-9ァ-ヴーa-z A-Z¥s]?[^0-9ァ-ヴーa-z A-Z. /・:]"/>
```

GUI 関連 [±]

fontsize 要素 [±]

GUI のフォントサイズの定義

- @value: $7 \sim 18$ (pt)
- 例

```
<fontsize value="14" />
```

isIndexingEnable 要素 [±]

1

1.

1

1.

メニュー項目 **[ツール]→[インデックス生成]** を表示するか否か

- @value
 - true
 - false (default)

```
<isIndexingEnable value="true" />
```

isGenerateCorpusFileEnable 要素(ver.1.5で廃止) [±]

メニュー項目 [ツール]→[コーパスファイル生成] を表示するか否か

- @value
 - true
 - false (default)
- 例

```
<isGenerateCorpusFileEnable value="false" />
```

閲覧関連 ±

browsers 要素 [±]

閲覧用の WWW ブラウザの定義

- @temp_file: ブラウズ時のテンポラリファイル
 - 。 @label: [ツール]→[閲覧]中の項目文字列
- li (空要素)
 - 。 @name: ブラウザ名
 - 。 @path: ブラウザの実行プログラムへのパス
 - パスに "Program Files" を含み, 起動に失敗した場合, "Program Files (x86)"に置換した上で再
 - [[default_browser]]の場合は、OSのデフォルトブラウザを使用(since 1.6)
 - 。 @option: ブラウザ実行時のオプション
 - 。 @os: 対応するOS名
 - Windows
 - Mac
 - Linux
 - 。 @omit_scheme ... 廃止
 - true ... isBrowsed が true の要素閲覧時の URL に対して, スキーム(file://)を付けない。
 - true 以外 ... スキームを付ける。
- 例

```
<bre><bre>drowsers temp_file="__searched_tmp.xml" label="記事">
    <!ii name="Microsoft Internet Explorer"</pre>
        path="c://progra~1/intern~1/iexplore" />
  <!i name="Mozilla" path="mozilla" />
 </browsers>
```

xsl_files 要素 [±]

閲覧用の XSL ファイルに関する定義

1

1

- @root_path: XSL ファイルを格納しているディレクトリのルートパス(「ひまわり」を格納しているディレクトリからの相対パスで定義)
- @temp_dir: XSL ファイルを格納しているディレクトリのルートパス(「ひまわり」を格納しているディレクトリからの相対パスで定義)
- li (空要素)
 - 。 @name: XSL ファイル名
 - @label:
- 例

1.

1

外部データベース関連 [±]

external_tools 要素 (since ver.1.6) [±]

外部ツールへのアクセス方法の定義。後述の<u>access command1, 2要素</u>では, 2個までしか定義できなかったが, 3個以上定義できるようにした。また, OS別の記述も可能

- li (空要素)
 - 。 @field: access_command1, 2と同一
 - 。 @path: access command1, 2と同一
 - 。 @argument: access command1, 2と同一
 - @name: 設定名(重複しないように設定すること)。メニューには@labelの値が用いられる。
 - 。 @os: 対応するOS名
 - Windows
 - Mac
 - Linux

access_command1, access_command2 要素 (deprecated) ±

外部ツールへのアクセス方法の定義(2通り定義できる)。ver.1.6からexternal_tools 要素を推奨。

- @label: メニュー用のラベル
- @path: 実行プログラムへのパス。ただし, [[]] で囲われている場合は, 次の内部コマンドを実行する。
 - 。 soundplayer ... 音声再生用プログラム
 - o xdb1, xdb2 ... 簡易データベース検索プログラム。それぞれ, ext_db1, ext_db2 要素で設定を行う。
 - browser ... ブラウザ。browser 要素で指定されたプログラムを利用する。 (since 1.5)
- @argument: 実行プログラムの引数
 - 。 (())で囲われている場合は、検索結果中の当該フィールド値で置き換えられる。
 - @field が指定されておらず、@argument の値がフィールド指定になっていれば、それが起動用フィールドとしても利用されるになる(ただし、「((雑誌名)) 400px」のように、フィールド指定の文字列以外の文字列を含んではならない)。
 - 。 内部コマンドでない場合, @argument中の引数が複数ある場合, "_/_"で区切る。空白は引数の区切りには使用できない(ファイル名中の空白と区別するため)
 - 。 内部コマンドの引数
 - soundplayer ... 第1引数: サウンドファイル
 - xdb1, xdb2 ... 第1引数: DB検索キー, 第2引数: 結果表示ウィンドウの幅
 - browser ... 第一引数: URL
- @field: 実行プログラムの起動用フィールド。検索結果ウィンドウの指定されたフィールドをダブルクリック すると当該コマンドが実行される。(since 1.3)
- 例

```
〈access_command1 |abel="著者情報" path="[[xdb1]]" argument="((著者))" />
〈access_command1 |abel="著者DB" path="[[xdb1]]" argument="((著者)) 400px"
field="著者ID"/>
```

ext_db1, ext_db2 要素 ±

[ツール]→[一覧]から参照される外部データベースの参照形態を定義する。また, ext_db1, ext_db2 は, それぞ れ xdb1, xdb2 用の設定である。

- @name: データベース名。この名前は, [ツール]→[一覧]で表示される文字列としても使われる。
- @url: データベースファイルへの URL
- @record_name: 検索対象のレコード名
- @key: 検索対象のフィールド名
- li (空要素)
 - 。 @name: フィールド名
 - 。 @width: フィールド幅 (default: 40)
 - 。 @align: 文字揃え
 - 。 @sort_order: ソート順位 (1∼)
 - 。 @sort_type: ソートの種類
 - string (default) ... 文字列としてソート
 - numeric ... 数字としてソート
- 例

```
<ext_db name="著者DB" url="authors.xml" record_name="著者" key="氏名">
 name="氏名" width="100" sort_order="1" />

name="没年" width="50" align="RIGHT" />
</ext db>
```

jitaidic 要素 [±]

字体辞書の定義

- @url: 字体辞書ファイルのURL

```
<jitaidic url="jitaidic.xml" />
```

-覧表示機能関連 🕇

corpus_fields ±

収録しているコーパスの一覧を表示する

unit fields ±

閲覧対象要素の一覧を表示する。閲覧対象要素は, index_eix/@isBrowsed で定義する。

user_defined_lists (since ver.1.6, 未確定) [±]

指定した要素の一覧を表示する。なお、element 要素は複数記述することができる。

- @label: (廃止予定)
- element 要素
 - 。 @name: 一覧対象の要素名
 - 。 @label: メニュー表示用のラベル
 - 。 li 要素

1.

1

1

1.

- @name: 表示用のフィールド名
- @element:表示する属性の要素名(ただし,一覧する要素か,それを包含する要素)
- @attribute: 表示する属性名 なお,特殊な属性値として, _contents (要素内容を表示), _length (要素内容の文字数を表示)が 定義されている。
- @width: フィールド幅
- @align: 文字揃え
- @sort order: ソート順位 (1~)
- @sort type: ソートの種類

stat_fields_1, stat_fields_2, stat_fields_3 ±

頻度計算するのに利用するフィールドの定義

- @label: [ツール]→[統計]メニュー用のラベル
- li (空要素)
 - 。 @name: フィールド名
 - 。 @width: フィールド幅 (default: 40)
 - 。 @align: 文字揃え
 - 。 @sort_order: ソート順位 (1~)
 - 。 @sort_type: ソートの種類
 - string (default) ... 文字列としてソート
 - numeric ... 数字としてソート
- 例

```
<!i name="+-" width="40" />
<!i name="年" width="50" align="RIGHT" />
```

インポート関連 (since 1.5β) [±]

import / target_file_type 要素 [±]

インポート時のデフォルトのインポート対象ファイルを設定

- @names: 対象ファイルの種類
 - 。 txt: テキストファイル
 - 。 xhtml: HTML, および, XHTML ファイル
 - 。 xml: XML ファイル
- 例

```
<target_file_type names="txt, xhtml" />
```

import / char_normalization 要素 [±]

インポート時のデフォルトの文字正規化方法を設定

- @name: 正規化方法
 - 。 none: なし
 - 。 user_defined: ユーザ定義 nfkc: NFKC (Unicode)
- 例

```
<char_normalization name="none" />
```

import / char_convertion_table 要素 [±]

1.

1.

1

インポート時のテキスト変換用テーブルの設定。import/char_normalization[@name="user_defined"]の時に使用される。文字の対応は @from と @to で, 先頭から1文字ずつが対応するように定義する。

- @from: 変換前 @to: 変換後
- 例(数字の半角⇒全角変換)

<char_convertion_table from="0123456789" to="0 1 2 3 4 5 6 7 8 9" />

import / text_transformation_definition 要素 ±

インポート時のテキスト置換用定義ファイルを指定

- @dir: 定義ファイルが存在するフォルダ
- @default: デフォルトの定義ファイル名
- 例

<text_transformation_definition dir="resources/htd" default="aozora.htd" />

- 定義ファイルの仕様
 - 。 例

- 。 置換規則は、先頭から順番に適用される。
- 。 定義ファイルの文字コードは, UTF-8 で記述する。
- 。 置換対象の文字列は正規表現で指定する。正規表現は Java の <u>java.util.regrex.Pattern クラス</u>に準じる。
- 。 置換対象, 置換文字列はタブで区切る。置換文字列には, \$1,\$2 などの前方参照値を使うことができる。詳細は, java.util.regrex.Matcher クラスの解説を参照のこと。
- 先頭が # で、タブの数が一つでない行は、コメントとみなされる。

import / xhtml_style_sheet 要素 [±]

インポート時の XHTML ファイル用のスタイルシートを指定

- @dir: スタイルシートファイルが存在するフォルダ
- @default: デフォルトのスタイルシートファイル
- @isTidied: HTML⇒XHTML変換の可否のデフォルト値
 - true: 変換するfalse: 変換しない
- 例

<xhtml style sheet dir="resources/xsl/xhtml" default="xhtml2xml aozora.xsl" isTidied="true" />

import / xml_style_sheet 要素 [±]

インポート時の XML ファイル用のスタイルシートを指定

- @dir: スタイルシートファイルが存在するフォルダ
- @default: デフォルトのスタイルシートファイル
- 例

<xml_style_sheet dir="resources/xsl/xml" default="xml.xsl" />

import / as_subcorpora 要素 (since 1.5β04) [±]

インポート対象フォルダの直下のフォルダをサブコーパスとしてインポートする。

http://www2.ninjal.ac.jp/lrc/index.php?%C1%B4%CA%B8%B8%A1%BA%F7%A5%B7%A5%B9%A5%C6%A5%E0%A1%D8%A4%D2%A4%D... 10/13

1.

1

1

@value:

• false: サブコーパスとしない(default)

。 true: サブコーパスとする

例

<include_subcorpora value="true" />

import / not_now_indexing 要素 (since 1.5β04) [±]

インポート時にすぐ索引づけしないように設定する。

· @value:

。 true: すぐ索引づけしない

。 false: すぐ索引づけする(default)

例

<not_now_indexing value="true" />

import / source_files 要素 (since 1.5β04) [±]

インポート時にコピーするファイルを指定する。なお、ファイルのパスの起点は、ユーザが指定したインポート対 象のフォルダである。

• @corpus dir: コーパスのソースファイルを格納したフォルダ

• @corpus name: コーパス名

• @config_file1: 設定ファイル1(必須) • @config file2: 設定ファイル 2 (任意)

@xslt dir: xslt のフォルダ • @aux_dir: 補助フォルダ

例

<source_files corpus_dir="test_src" corpus_name="test"</pre> config1="config.test.xml" config2="config.test.db.xml" xslt_dir="xslt" aux_dir="aux" />

アノテーション関連 🕹

annotator 要素 (since 1.5β) [±]

アノテーションをするための外部プログラムの定義

- li 要素 ... 一つの外部プログラム
 - 。 @name: 外部プログラム名
 - 。 @os: 対象のOS
 - 。 @annotation: アノテーション名 (field_setting/li/@type="db" のとき, field_setting/li/@element で指定する名前となる)
 - 。 @command: 外部プログラムへのパス (パス中に「Program Files」を含み, 当該のコマンドが存在し ない場合は、「Program Files (x86)」のパスでも実行を試みます)
 - 。 @option: 外部プログラム実行時のオプション
 - @encoding: 外部プログラムが入力として想定する文字コード (since 1.6)
- li/extract ... コーパス中でアノテーションの対象となる要素
 - 。 @name ... 要素名
 - 。 @attribute ... 要素の属性名
 - 。 @value ... 属性值
 - 。 例

1

1

```
<extract element="引用" attribute="種別" value="会話" />
              ... 「引用」要素のうち、「種別」属性が「会話」のものを対象とする
```

- 。 注意
 - @attribute を指定しない場合, @name で指定した任意の要素が処理対象になる
 - 指定する要素は、連続しているか、改行で区切られていなければならない。この条件が満たされな い場合, アノテーションに失敗する可能性がある。
- li/chunk ... extract 要素で指定されたコーパス中の要素を外部プログラムが処理する単位を決定する。
 - 。 @delimitor ... 単位分割するための正規表現
 - 。 @maxlength ... 1処理単位に含まれる最大文字数(これを超えた場合,強制的に分割される)
 - 。 例(最大200文字で、「。」または「?」で区切られる単位を1処理単位とする場合)

```
<chunk delimitor="[。?]+" maxlength="200" />
```

- li/result fields ... 外部プログラムの出力の形式を定義する。
 - @delimitor ... 外部プログラムの出力結果のフィールド区切り文字
 - 。 li/@name ... フィールド名
 - li 要素の順序は、外部プログラムの出力結果のフィールド順と対応する
 - field_setting/li/@type="db" のとき, field_setting/li/@attribute で指定する名前となる
 - " TEXT"は、解析対象の文字列(形態素解析の場合は、出現形に相当)を表す。出力結果にはこのフ ィールドを必ず含まなければならない。
 - "_used"で始まる場合, 辞書のフィールドとして追加しない。(since 1.6)
 - 。 li/@isIndexed ... field setting/li/@type="db" 用の索引の有無
 - true: 索引あり
 - false: 索引なし(default)
 - 。 li/@contextLength ... 前後要素長 (since 1.6)
 - 当該要素の前後n個分のフィールドを検索結果に追加する
 - @name="基本形", @contextLength=2のとき, 四つのフィールド「基本形-2」「基本形-1」 「基本形1」「基本形2」を検索結果に追加する
 - 。 例

```
\langle \text{li name="\_TEXT" isIndexed="true"} / \rangle
くli name="読み"
/li name="基本形"/>
(li name="品詞"/>

name="活用型" />
li name="活用形"/>
```

「ひまわり」資料参照関連 土

manual 要素 [±]

「ひまわり」マニュアルの URL の定義

- @url: 「ひまわり」マニュアルの URL (なお, URL にプロトコルが指定されていない場合は, ファイルとみな し, file:// とパスを付加する)
- 例

```
<manual url="manual/index.html" />
```

hp 要素 [±]

「ひまわり」ホームページの URL の定義

- @url: 「ひまわり」ホームページの URL
- 例

<hp url="http://mimir.corpus.rd1.local/resource/index.php" />

1

パッケージ設定ファイル ±

パッケージ設定ファイル(.himawari_package_info)は、インストール機能([ファイル]⇒[インストール]、ver.1.5 以降)に対応したパッケージに同梱されるもので、インストールするファイルのリストが記述される。

インストール設定ファイルの仕様 *

- パッケージ設定ファイルの名前は, .himawari_package_info とし, パッケージを含むディレクトリのルート に設置するものとする。
- パッケージ設定ファイルの文字コードは, UTF-8 とする。ただし, 文字コードに起因するコピー時の問題を避けるため, ISO/IEC 646 の範囲で記述することを推奨する。
- パッケージ設定ファイルには、『ひまわり』フォルダにコピーするファイル、及び、フォルダを列挙する。
 - 。 コピーするファイル, および, フォルダの指定は, 『ひまわり』フォルダを起点とする相対パスで指定する(下記の例を参照のこと)。
 - 。 コピー先は,次の場所に限定する。
 - Corpora フォルダ内
 - resources フォルダ内
 - 『ひまわり』フォルダ直下(この場合は、『ひまわり』設定ファイルのみ)
 - フォルダを指定した場合、フォルダに含まれるすべてのファイルがコピーされる。
- 『ひまわり』設定ファイルがパッケージに同梱されていれば、インストール成功時に自動的に読み込まれる。 なお、『ひまわり』設定ファイルが複数ある場合は、最初に指定されたものが読み込まれる。

インストール設定ファイルの例 ±

『分類語彙表』パッケージ [±]

Corpora/Bunrui config_bunrui.xml

- パッケージの Corpora/Bunrui と config bunrui.xml が『ひまわり』フォルダにコピーされる。
- パッケージインストール後, config_bunrui.xml が読み込まれる。

『青空文庫』パッケージ 🕇

Corpora/Aozora config_aozora.xml config_aozora.db.xml

- パッケージの Corpora/Aozora, config_aozora.xml, config_aozora_db.xml が『ひまわり』フォルダにコ ピーされる。
- パッケージインストール後, config_aozora.xml が読み込まれる。

Last-modified: 2018-07-11 (水) 18:14:45 (50d)

Site admin: anonymous

PukiWiki 1.4.7 Copyright © 2001-2006 <u>PukiWiki Developers Team</u>. License is <u>GPL</u>. Based on "PukiWiki" 1.3 by <u>yu-ji</u>. Powered by PHP 5.1.6. HTML convert time: 0.144 sec.

1.

1

http://www2.ninjal.ac.jp/lrc/index.php?%C1%B4%CA%B8%B8%A1%BA%F7%A5%B7%A5%B9%A5%C6%A5%E0%A1%D8%A4%D2%A4%D... 13/13